

No. 02

総合病院 土浦協同病院
広報誌 touch (タッチ)
TAKE FREE

touch

contents

ふれあい：J:COM スタジアム土浦

院内探訪：タリーズコーヒー

かけはし：川島医院



特集：地域包括ケアシステム チームで守る地域の健康

地域包括ケアシステム

チームで守る地域の健康

介護の取り組み

- ・医療機関との連携強化
- ・介護予防、認知症予防への取り組み

医療の取り組み

- ・かかりつけ医と専門医の役割分担推進
- ・医療機関同士の連携を強化
- ・退院支援、在宅復帰への取り組み
- ・「治す医療」から「治して支える医療」へ

住まいの取り組み

- ・自宅の整備
- ・サービス付き高齢者向け住宅などの整備

かかりつけ医と専門医

日常的な健康管理を、診療所などの「かかりつけ医」が行い、詳しい検査や手術を病院の「専門医」が担うのが地域医療連携です。専門医とかかりつけ医が、それぞれの機能に合った役割を担い、緊密な連携をとることが地域医療を持続するカギになります。

生活支援・予防の取り組み

- ・健康寿命を延ばす
- ・生涯現役、65歳を過ぎても働ける環境を整備
- ・地域とのつながり、社会参加を促す

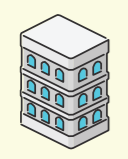


土浦市の年齢別人口（平成 29 年 4 月 1 日現在）

年齢	男	女	計	比率 (%)
0～14	9,080	8,308	17,388	12
15～64	45,150	41,515	86,665	61
65～	17,367	21,762	39,129	27

土浦市ホームページより

平成 29 年 2 月時点における年齢別人口比率の全国平均は 0～14 歳が 12.4%、15～64 歳が 60.2%、65 歳～が 27.4%となっており、土浦市の比率はほぼ全国平均であると言えます。



地域包括支援センター

図が示す通り、地域包括ケアシステムには様々な組織が関わっています。支援センターで働く保健師、ケアマネージャー、社会福祉士などが、これらのサービスを切れ目のない形で運営するための体制を支えています。

日本は、世界に例をみない速さで高齢化が進んでいます。平成 29 年には、人口における 65 歳以上の割合が 27% を上回りました。一般には同割合が 21% を超えると超高齢社会として分類されます。社会のあり方が大きく変わるなか、**可能な限り住み慣れた地域で、健康に過ごすための制度として推進されているのが「地域包括ケアシステム」**です。地域包括ケアシステムは行政、介護施設、医療機関などが連携し、そこで働く様々な専門職がチームを組んで、地域の暮らしと健康を守るための制度です。



← 患者相談窓口のご案内

医療、介護、福祉、その他、どんな些細な内容でも受け付けています。「どこに相談したらいいかわからない」「誰に相談したらいいかわからない」と、お悩みの方は、ぜひ患者サポートセンターをご利用ください。

- ・症状や病気に関すること
- [例] ・家族を受診させたい
- ・健康保険の制度や治療費に関する相談 など



特集

地域包括ケアシステム

当院における取り組み

地域包括ケアシステムにおいて、土浦協同病院が担うのは医療の提供です。地域医療を持続していくためには、「かかりつけ医」と「専門医」がそれぞれの機能と役割を活かし、緊密な連携をとることが重要になります。当院では、地域連携室と患者サポートセンターが両輪となつて、システムの円滑な運用に貢献しています。



地域連携室

かかりつけ医と専門医を繋ぎます

地域連携室は、限られた医療資源を有効活用し、質の高い地域医療を提供するため、地域のかかりつけ医と当院の専門医を繋ぐ役割を担っています。

主な業務は紹介患者さんの受け入れと、紹介された患者さんの逆紹介です。まず、開業医や他病院から依頼される患者さんの紹介を受けて、診察の予約を取ります。迅速な対応で「開業医さんも患者さんも待たせない」ことを心がけています。症状が落ち着いた患者さんは、紹介元の医療機関に逆紹介します。かかりつけが無い場合は、お住まいの近隣で適切な診療科のある医療機関をピックアップし、紹介しています。

また、病院が保有する高度な検査機器（CT等）を使用したい、という依頼への対応も行っています。

地域医療連携には、職員はもちろん、患者さんのご理解とご協力が重要になります。医療連携の必要性を知ってもらうための広報活動も、積極的にを行っています。

前方連携



紹介の電話を受ける職員



当院の医師を紹介する冊子（開業医向け）



連携する医療機関を広報誌に掲載

患者サポートセンター

後方連携

患者さんの療養生活・社会復帰を手助けします

患者サポートセンターでは、様々な職種で構成された12名のスタッフが連携し、患者さんやご家族に安心して療養生活を送っていただくと共に、早期の社会復帰を実現できるようにサポートしています。

その業務は大きく①入院・周術期サポート、②退院支援、③患者相談窓口の3つに分けられます。また、平成29年7月からは、ケアマネージャーとの連携窓口としての役割も加わり、よりきめ細かい対応が可能となりました。

①入院・周術期サポートでは多職種が連携し、必要事項を迅速に確認しつつ、入院・手術に対する様々な不安を取り除く手助けをし、②退院支援では、介護など退院後の支援が必要な患者さんのサポートをしています。③患者相談窓口では入外問わず相談を受け付けています。病気の相談から、治療内容、入院費、家族に関するものまで、その内容は多岐に渡ります。

超高齢社会において、同センターが担う役割は以前にも増して重要になっています。



多職種が連携して業務を行う



相談内容を考慮し個室も用意



1階にある患者サポートセンター

ふたりの主治医を持ちましょう

「かかりつけ医」と「専門医（病院）」が連携し、適切な医療を提供します。

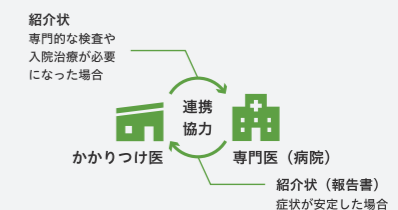
「かかりつけ医」とは

日常的な診療や健康管理など、気軽に相談できる身近なお医者さんのことです。検査や入院が必要な場合は、病院や専門医を紹介してもらえます。土浦協同病院の医師と、ご近所のかかりつけ医と2人が主治医となります。紹介状を通して患者さんの診療情報を交換しますので安心です。

様々なメリット

- 紹介状をお持ちいただくこと…
- ・検査の重複がおきず、医療費を抑制できます
- ・選定療養費（5,400円）が必要ありません
- ・かかりつけ医を通して予約すると、事前にカルテの準備ができます

連携のしくみ



「かかりつけ医」への紹介状をご希望の方は主治医まで総合病院 土浦協同病院

↓ 平成28年度実績

紹介患者数 1,444 (件)
逆紹介患者数 909 (件)
(月平均)

→ ふたりの主治医を持ちましょう

院内の電子看板で掲示している地域医療連携のメリットを紹介したポスター。患者紹介の橋渡しのほか、このような広報活動も積極的に行っています。

[看護師]
入院生活、手術・検査の説明や、入院前の生活状況などを確認します。

[薬剤師]
服用しているお薬や、中止する必要があるお薬などの説明をします。

不安や悩み、私たちに相談ください！

患者サポートセンターで働くスタッフの紹介です。

[管理栄養士]
食物アレルギーの確認、入院中の食事について、栄養指導などを行います。

[ソーシャルワーカー]
入院生活や、その他の不安なことについて、ご相談に応じています。

[事務員]
入院費、保証書・保証金の預かり、限度額認定証のご説明を担当します。

土浦協同病院にできること

地域医療連携室室長 統轄院長補佐 酒井 義法



統轄院長補佐 酒井 義法

昭和 57 年 東京医科歯科大学医学部卒業 第二内科入局
土浦協同病院で臨床研修
昭和 59 年 横須賀共済病院勤務
昭和 63 年 社会保険三島病院勤務
平成 4 年 土浦協同病院 消化器内科
平成 9 年 土浦協同病院 内科科長
肝臓病の研究で学位取得
平成 18 年 土浦協同病院 内科部長
平成 27 年 土浦協同病院 副院長兼内科部長
平成 29 年 土浦協同病院 統轄院長補佐
所属学会 内科学会 認定医、評議員 消化器病学会 地方会評議員
肝臓学会 指導医 消化器内視鏡学会 指導医
臨床腫瘍学会、癌治療学会、膵臓学会、透視療法学会
日本病院管理学会、マネジメント学会
農村医学会 評議員、他
職 責 地域医療連携担当、情報システム責任医師
茨城県肝炎認定協議会委員

用語解説

高度急性期、急性期医療

急性期とは、病気やケガが発症し急激に症状が現れる期間を指します。急性期医療は、病気やケガに対して行なう初期対応と言えます。高度急性期医療は、救命救急センターや集中治療室（ICU）、新生児集中治療室（NICU）などを備えた施設が、特に密度の高い診療を行なう期間を指します。

ケアマネージャー

介護支援を専門に行なう職種で、利用者の希望を聞き、どのような介護サービスが必要かを査定し、介護保険が利用できるよう計画を立案・作成します。サービスの利用を開始した後も、利用者の状況に合わせて評価を行います。地域包括ケアシステムにおいて中心的な役割を担うことが期待されています。

持参薬チェックなどはスムーズな手術の実施、患者さんの負担軽減に大きく貢献しています。

地域全体で患者さんやご家族のニーズに応える

このシステムが必要な背景には人口の高齢化があります。よく言われる2025年問題ですが、これは団塊の世代が75歳（後期高齢者）を超える年のことで、医療や介護の需要増加に対し十分なサービスを提供できるのか、医療費の増大による国家予算の圧迫、支える家族の高齢化による老々介護、高齢者の単身世帯の増加など様々な問題が指摘されています。

一方で、あるアンケートでは「高齢になっても住み慣れた地域や自宅で暮らし、最期を迎えたい」という方が7割を超えています。ご家族にも「出来るだけ在宅でサポートしていきたい」という意識があります。

医療・介護の需要は増加しますが、医療費は抑制しなければならぬ、という矛盾した問題に取り組みにあたっては、地域の医療資源を最大限活用し、効率よく提供していくことが重要になります。また、アンケートにあるような患者さんやご家族のニーズに可能な限り応えていくためにも、医療や介護を受ける前段階からの支援も含めた包括的な対策も必要になります。地域全体で暮らしや健康を支えていくための制度が地域包括ケアシステムです。

一人主治医制の推進と治療後の支援体制を整備

今後も前方連携と後方連携、ふたつの連携を強化していくことが必要です。現在、当院の外来は非常に多くの患者さんが通院しており、なかなか紹介された患者さんをスムーズに診ることが難しい状況です。急性期医療の提供という役割を考えたとき、これは解決すべき課題とな

医療の役割分担

地域包括ケアシステムにおいて当院が担うのは医療ですが、その中でも高度急性期、急性期医療の提供が中心になってきます。当院にはたくさんの方の診療科があり、また各診療科のレベルも高く、様々な疾患に対応できます。急性期の患者さんに対し、まず当院で状態の安定化に向けた治療を行います。その後、経過良好となった患者さんを地域のかかりつけ医に紹介することで、日常的な診察などのフォローをしていきます。急性期を当院が担い、状態が安定した患者さんの経過観察をかりつけ医が担う。この役割分担が地域包括ケアシステムにおける医療で重要になってきます。

そのために必要なのが、職種や施設の壁を越えたシームレスな連携です。当院では地域連携室が、開業医など地域の医療機関とのスムーズなやり取り、患者さんの紹介・逆紹介など前方連携を担当しています。患者サポートセンターでは、退院後の支援や、ケアマネージャーとの連携など後方連携を担当しています。多職種が働くこの部署では、入院・手術を控えた患者さんに対してのサポートも行っています。例えば、薬剤師による

ります。病院の専門医と地域のかかりつけ医の一人主治医制、紹介・逆紹介という流れをしっかりととした連携のもとで進めていくことが重要です。

また、退院後の支援、在宅復帰への取り組みでは、患者サポートセンターが窓口となってケアマネージャーとの連携を強化するほか、介護とは別の医療的な部分で訪問看護の充実にも力を注ぐ必要があります。そのためには、地域で共有できる電子カルテなどの整備が課題になりますが、その時も当院が中心的な役割を担っていきたくと考えています。

高度急性期、急性期医療の提供は当然ながら、今後は退院後の支援、在宅でのケアも含めた体制を整えていくことが、当院が地域の中核病院として果たしていくべき役割ではないでしょうか。



当院で働く
スタッフを紹介

Focus

no.03 福祉相談部
ソーシャルワーカー 富山裕子



患者さんやご家族が安心して生活できる支援を
ソーシャルワーカーとして入院患者さんが安心して退院後の生活が送れるよう、その支援を行っています。私は、整形外科、呼吸器内科病棟を担当しています。高齢者の骨折は、リハビリ病院への転院など退院後の支援を必要とするケースが多くあります。主治医や看護師と患者さんの状況を確認し、支援が必要そうな方には、こちらから働きかけ

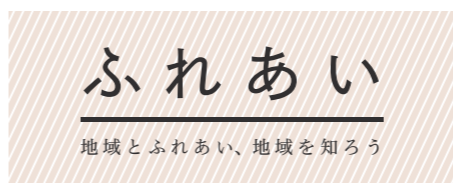
勤続年数：3年 趣味：音楽鑑賞

をしています。何度かお話をさせていただいたり、リハビリを頑張っている姿を見せていただいているので、関わった患者さんの回復した姿を見かけると、とてもうれしくなります。支援を必要とする患者さんの多くは高齢者の方です。退院後も安心して生活を送っていただくためには地域との連携が不可欠です。住み慣れた地域で長く暮らしていくために、私にできることをしていきたいです。



J:COMスタジアム土浦

J:COMスタジアム土浦は川口運動公園内にある野球場です。球場の歴史は古く、昭和25年に土浦市営球場として開設しました。平成27年11月より観客席の増設、LEDナイター照明設置に伴い一時閉場していましたが、平成29年7月に改修工事が完了し、J:COMスタジアム土浦として再開場しました。観客席は改修工事により倍増し、およそ1万3千人の収容が可能となりました。同球場は、土浦駅からも程近く、アクセスの良さが特徴



J:COM スタジアム土浦
茨城県土浦市川口2-12

です。かすみがうらまらソンをはじめ、多くのスポーツイベントの会場としても利用され、開設以来、土浦市民から親しまれてきました。また、全国高等学校野球選手権大会（甲子園）の予選となる茨城大会の会場にもなっています。期間中は多くの観客が訪れ、大変な盛り上がりを見せます。川口運動公園内には、野球場の他にテニスコートや陸上競技場、運動広場も設置されており、総合的なスポーツ施設となっています。

no.04 栄養部
管理栄養士 榎美穂



食事に関するお悩みは何でもご相談ください

管理栄養士は、栄養や食事の面から患者さんの健康をサポートしています。私は主に、病院給食の管理や、患者サポートセンターで栄養指導を行っています。病院給食の管理では、入院患者さんに提供する食事の献立を作成します。その中でも嚥下（ものを飲み込むこと）が困難な患者さん向けの献立を担当しています。飲み込み

勤続年数：7年 趣味：散歩

やすさに気を配るのはもちろん、季節の食材で使えそうなものは、積極的に取り入れています。食事は大きな楽しみのひとつでもあります。笑顔で食事している患者さんを見ると、やりがいを感じます。患者サポートセンターでは栄養指導のほか、入院外来問わず、様々な患者さんの相談も受けています。食事や栄養に関するお悩みがある方、ご家族の食事に関するお悩みがある方がいましたら、お気軽にご相談ください。



かけはし

地域の健康をまもる
連携医療機関の紹介

Vol.04

川島医院

住所：茨城県かすみがうら市深谷 3656-1
電話：029-897-1237
診療科：内科、小児科、放射線科
診療時間：午前／08：30～12：00
午後／14：00～17：30
休診日：水曜午後、日曜、祝日

ご挨拶
当院は、地域医療の核をめぐり、1947年に父が創業し、1996年から私が引き継ぎ、今年70周年を迎えます。ここまでやってこられましたのは、ひとえに各種関係団体、行政、会員の先生方のご支援の賜物でございます。
日々地域住民のかかりつけ医として、病気の予防、治療、健康相談等を行う傍ら、学校医、検案医、産業医として公務を全うしております。
この度、土浦協同病院が地域医療支援病院の指定に向けて病診連携を強化していくとのこと、当院の緊急搬送、精密検査の患者さんへさらなる迅速に受け入れて頂けるようになります。病診連携の有り難さを深く感謝しております。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

アクセスマップ



川島 房宣 院長



タリーズコーヒーは全国展開するスペシャリティコーヒーチェーン店です。アメリカ・シアトルが発祥で、高品質なコーヒー豆をこだわりの焙煎、サイビスでお届けしています。基本メニューである「本日のコーヒー」は、毎日、約10種類の豆の中から選んだものを提供しています。フードメニューや季節限定メニューも豊富で、何度もお訪れいただけるお店です。また、当院のような病院内店舗を積極的に展開していることも特徴です。



基本情報

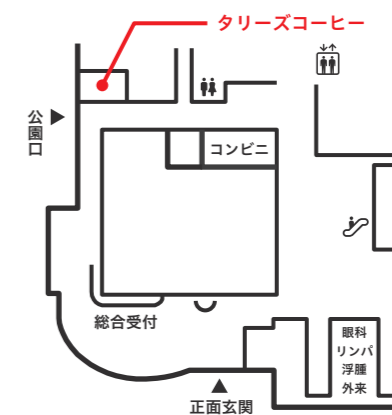
場所：1階
営業時間
平日：07:30～19:00
土日祝祭日：10:00～18:00
お問い合わせ：029-830-3345

基本メニュー

本日のコーヒー
Short：320円(税込)
Tall：370円(税込)
Grande：420円(税込)

※平成29年8月現在

アクセス



タリーズコーヒー
土浦協同病院店

院内探訪
facility

02

土浦協同病院には様々な施設があります。快適に過ごしていただくための施設から、見つけたらちよっとうれしい「なにか」まで、院内のあらゆるスポットを紹介いたします。

看護部健康サポート委員会では各教室を開催しております。お子様の緊急時の対応法や、ご家族の健康の保持増進および病気に対する管理能力を高めていただくためにも、皆様方の教室への参加をお待ちしています。



9 月 5 日 (火) 13:30 ~ 15:00

1F 市民交流広場

腎臓病教室

腎臓病の運動療法



9 月 8 日 (金) 13:30 ~ 15:00

1F 市民交流広場

糖尿病教室

糖尿病を攻略する生活の工夫 PART2 一食事編一



9 月 13 日 (水) 13:00 ~ 14:00

1F 市民交流広場

口腔ケア教室

歯のトラブル予防 (虫歯・歯周病)



J:COM スタジアム土浦



患者さんの声

→ voice

神立駅からバスの連絡をお願いしたいです。

← answer

交通の利便性につきましては大変ご不便をおかけしております。現在、おおつ野地区から神立方面に田村・沖宿線延伸工事が進んでおります。この工事完成後には、神立駅からのバス路線を開設するようバス会社に強く要望しており、前向きな回答もいただいております。皆さまが利用しやすいよう、公共交通機関との協議、検討を進めてまいります。今しばらくお時間をいただきますようお願いいたします。

編集後記

表紙の写真は、患者サポートセンターと地域連携室の集合写真です。自然な笑顔が印象的で、雰囲気の良い写真が伝わってきました。次回発行は 10 月末日予定です。また、バックナンバーは病院ホームページにて閲覧できます。

touch (タッチ) は土浦協同病院の広報誌です。タイトルには、地域とふれあい、私たちの理念を地域の皆様に届けたい、という願いを込めました。

発行所 / 総合病院土浦協同病院
編集 / 病院機関誌委員会 地域連携室
発行人 / 家坂義人
MAIL / general@tkgh.jp